

異文化交流型 Peer learning による教養教育 —持続可能な社会を目指した体験型学習—

大橋眞、斉藤隆仁
徳島大学教養教育院

1. はじめに

持続可能な社会の構築が、世界の課題となっている。大学教育においても、このような将来に向けた課題に関する教育を体系化して実現していくことが求められている。徳島大学の教養教育においても、持続可能な社会を構築することを視点にいたした授業を数多く開講している。一般的な学習理論として、体験を取り入れることが理解を深めることに対して重要な役割を果たすことが示されてきている。持続可能な社会を理解するためには、それに関連した体験型学習を開発することが必要である。Peer learning は、一方的に教員から知識を伝えるのではなく、学生同士が学び合うことで、知識を受動的に入れるのではなく、知識を能動的に人に伝える体験をする機会になる。この経験により、単なる教科書的な知識だけでは、その知識を生かすことが難しく、体験を通じて初めて知識を生かすための知恵が必要であることに気づく。本発表では、これまで開発された異文化交流型体験型学習を紹介しながら、この成果を、どのようにして持続可能な社会を築く活動に生かしていくかについての可能性について、考察したい。

2. 取組について

2.1. 世代間コミュニケーション体験

徳島大学において、2009 年より大学教育に造詣の深い地域社会人と共に学び合う形式の授業を共創型学習課目（現在は、グローバル科目、地域科目、教養科目などに名称変更）として開設した。これらの授業では、学生とは異なった視点を持った地域社会人と、様々なテーマに関して議論をしている。特に現在の社会の課題や、これからの社会のあり方を考えることを中心としている

授業や、医療問題、ボランティア活動などの実践をテーマとした授業もある。また、課外活動において、地域で活躍する社会人との体験活動を通じて、コミュニケーションを図りながら自分とは異なった考え方を体験的に知る機会を設けている。

2.2 外国人学生とのコミュニケーション体験

留学生と一緒に学ぶ授業や、インターネットを使ったビデオ会議（写真A）により、海外で日本語を学ぶ学生と様々なテーマについて、コミュニケーションをする授業を開講している。同じテーマで議論をしても、全く違う意見や考え方の存在を知る機会となる。双方の異文化体験が、あらたな学習に対するモチベーションになる。また、サマープログラムにおいて、短期訪問した海外の学生と共に寝食を共にしながら、コミュニケーションを実践する活動を行っている。

2.3 スタディツアーにおける海外の大学訪問

海外スタディツアーにおいて、モンゴル、タイ、マレーシア、インド、スロベニア、イタリア、セルビア、ハンガリーなどの大学訪問を行っている（写真B、C）。また、前項の受講生である学生が自主的に交流先の大学を訪問する企画を立てて、実践する場合もある。外国の大学を訪問し学生と交流する体験を通じて、お互いに異文化理解の重要性を体験的に知る機会とする。

2.4 遊牧生活体験

モンゴルの遊牧生活をおこなっているゲルでのホームステイ体験を通じて、移動生活をする民族の知恵を体験する（写真D）。また、遊牧生活の実際についての話を聞くことにより、大自然と共生しながら生きていくという人間本来の営みを理解して、持続可能な社会について考える機会とする。さらに、この体験を通じて、グリーンツーリズムの意義を理解し、この分野の新しい展開

を考えることを目指している。

2.5 県内における新しい農業視察と体験

グローバル化に関連した授業における課外活動として、徳島県内の自然栽培農家を訪問して、簡単な農作業の手伝いをおこなう（写真E）。この活動を行いながら、地域の農業従事者から、現地の生活や農業を通じての地域再生に関する課題などを話し合う。また、持続可能な社会についての考え方を聞く。これらの活動を通じて、地域の農業に関する理解を深める。

3. 考察

異文化に関する体験は、持続可能な社会に関して、考えるきっかけになる。Peer learning という形式の学びを通じて、主体的に学ぶことの意義について、体験的に学ぶことが可能になる。これにより、新たな学習に対するモチベーション高揚が期待できる。自学の教室での授業だけではなく、海外の大学での体験や学生交流、地域の社会人との交流は、他者からの視点に立った考え方についての気づきにつながる。一連の活動を通じて体験から学ぶことの意義や、社会を知るということの体験を通じて、異文化交流から学ぶことの意味について考えることが可能になる。このように、持続可能な社会に関する教養を体験学習として身につけることが出来る教育プログラムを開発することにより、教養を学ぶことの意義についても、より広い理解が得られることが期待できると考えられる。



A. スカイプを用いた国際交流授業



B. モンゴル医科学大学学生との交流



C. スロベニアの大学での体験授業



D. モンゴルの遊牧生活をする家族との交流



E. 県内の農園での体験型学習